



2024年度（2025年3月期）

第2四半期決算 補足説明資料

2024年11月14日

ぴあ株式会社

東京証券取引所プライム市場

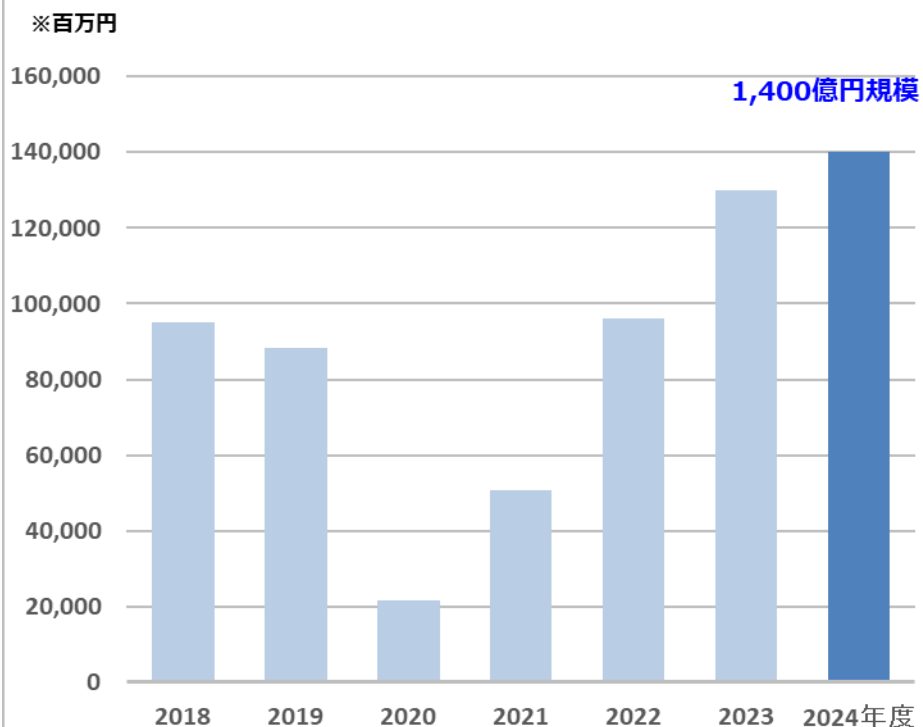
証券コード：4337

2024年度第2四半期 決算のポイント ～概要～

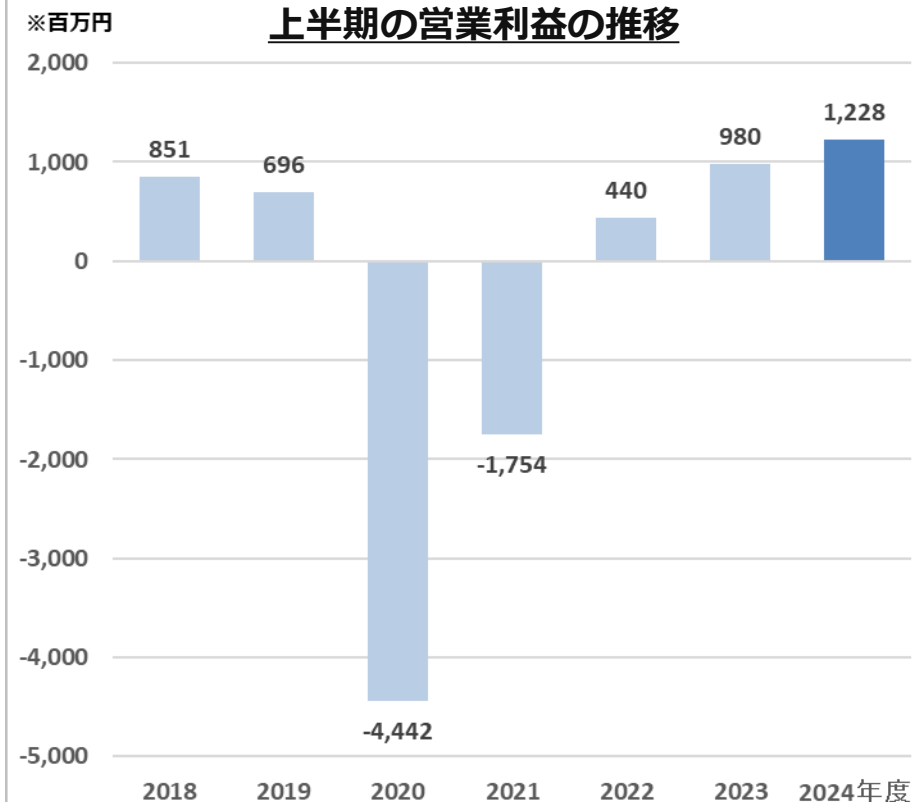


- ◆中期経営計画2年目の上半期業績は、第1四半期に続き、音楽、スポーツ等のチケット販売、およびその周辺事業が好調に推移し、取扱高は1,400億円規模となり、同会計期間では過去最高水準。
- ◆新規事業投資、給与アップを含めた人的資本投資の増加を吸収する形で、営業利益、経常利益ともに前期を上回り、期初想定通り順調に進捗。

上半期の取扱高の推移



上半期の営業利益の推移



2024年度第2四半期 決算のポイント ～詳細～



- 1.当社の事業基盤である国内レジャー・集客エンタテインメント市場は、ライブ・イベント開催の活発な動きが継続、すでにコロナ禍前を大きく上回る規模に拡大。一方、システム運用費やセキュリティ対応コスト、資材費や物流費、人件費、外払い手数料等の上昇への対応を喫緊の課題として認識。
- 2.18年前の、チケット販売サービス利用料の導入以来初めて、10/1より一部料金を改定。大型興行の計上タイミングにより、効果の発現は第4四半期以降の見込み。また、例年、第3四半期は大規模な音楽フェスやプロスポーツの発売が減少することから、業績は抑制的に想定し、2025年3月期業績は5月公表の予想数値を据え置く。
- 3.投資先企業の一部について、その経営状況の悪化を保守的に見据え、投資有価証券評価損3億36百万円を特別損失として計上。当社事業に与える影響は軽微。
- 4.ぴあカード会員数が30万人を突破(現在34万人)、大型主催興行の開催も順調。「ぴあアリーナMM」の稼働も好調に推移し、新規事業の「ホスピタリティチケット販売」も順次収益化。下期は、「大阪・関西万博」「東京2025世界陸上」等の大規模受託事業の販売促進に期待。

上期の主な取り組みとトピックス



(1)コンテンツ創出

- ・ぴあと三菱地所共催「Battle of Rock」をぴあアリーナMMで開催(4月)
- ・「ユーロジャパンCUP セレッソ大阪 vs ポルシアドルトムント」(7月)、「神宮外苑花火大会」(8月)等を主催
- ・エリア特化型ガイドブック『まるごとぜんぶシリーズ』が各地元で好評
- ・『森のカフェ/緑のレストラン』シリーズが全国で発売、各地で重版
- ・大谷翔平、小田凱人、栗山英樹などの語録書籍が好調



(2)チケット販売

- ・取扱高は1400億円超、中間期では過去最高
- ・「東京2025世界陸上」のオフィシャルイベントサポーターとして、チケットング業務全般を受託、8月より先行販売開始。オリンピック選手の活躍を受け、観戦チケット計約70万枚のうち、すでに約20万枚を販売
- ・受託業務の「大阪・関西万博」のチケットングシステムは順調に稼働、各種前売入場券を販売中
- ・新規事業の「ホスピタリティチケット販売」も順次収益化、各種イベントで好評を博す
⇒ジャパンラグビー リーグワン・プレーオフトーナメント決勝
⇒神宮外苑花火大会
⇒ジャパンオープンテニス
⇒新国立劇場バレエ公演 他



(3)ヴェニューネットワーク

- ・ぴあアリーナMM(約1万人収容)の稼働好調
貸館予約は来年度末まで週末は埋まる好況、周辺エリアと連携した当社主催興行も数多く開催
- ・東京駅前八重洲の新劇場(約800人収容)
2026年開業予定で準備中。立地の良さも好評で、初年度開業後の各種企画を検討中
- ・豊洲PIT(スタンディング約3000人収容)
アニメ、韓流、ゲーム、YouTuber等の新ジャンルの音楽イベントでの利用が好調



- ・「パンのフェス」「ぴあフェス」「ドッグランイベント」「横浜ミュージックハーバー」をはじめ、周辺施設や駅構内、交通機関等と連携した地域ぐるみの街イベントを企画・開催



上期の主な取り組みとトピックス



(4)ぴあのコミュニティ

- ・ぴあ会員数2000万人、ぴあカード会員数34万人を超え、日本最大のエンタテインメントのコミュニティを醸成



- ・「アプリ版ぴあ」ダウンロード数は現在約185万超



- ・JALと業務提携、マイレージによるホスピタリティプログラムやイベントチケットの交換を拡充。顧客のエンタテインメント体験を促進



- ・朝日新聞との協業によって設立した「ぴあ朝日ネクストスコープ」は、双方の強みを生かした広告商品を多角化



(5)サステナブルな人材・文化の育成



- ・第46回ぴあフィルムフェスティバルを開催(9月)、14歳の中学生が入賞するなど若い才能の台頭が顕著に
- ・日本航空と連携し、JAL国際線&国内線機内で、PFFアワード受賞作の上映がスタート(5月～)



- ・「ぴあスポーツビジネスプログラム」は第4期を開講(4月～)。スポーツビジネス業界で即戦力として活躍するためのノウハウを教育し、人材育成に取り組む



- ・ぴあ総研では、「集客エンタメ産業の社会的意義」をテーマに今年もシンポジウムを開催(5月)。各界の識者を招き、実践例や研究内容をもとに、集客エンタメによる地域活性効果を提言



SDGsの18番目の提言を継続

